







保氏物語玉のをとせ七巻



末編よりほぎくはきくよ又くと



弘雅堂  
文庫  
七巻



ものゝかたにまがふ一何とばらうで海考へ出つるうごむれあな  
そらうぐうかーこと出つるあまつるかぎり減今よりにつきて  
いそつねがうかつくきくはきてんといをやくのほ程ぞとそらに  
あつるうすあえまーがうーかかあやうぐハハヤウーかかん  
どいぐハキハヤウー先五巻おもものきかあひてえそ人言ん  
しそほ程ぞといえよかーそぞ。

末編花巻

あはち補

三の巻

此人よくむらりこのいひていつとれあそと













あそねばとるべし。とつがごとし。かこねやふいかにあそねばと  
つふり同し。ほむがごとし。

よさぐりねえ。世のひく。ちやしくんねきうねあやうかおや  
し。いさよさぐりねえとて。あまかおて。宮おす。物くさるおや。う  
えまわし。とつあじ。侍はとかつり。

をせぬか。世のちく。か。い。後。べし。背のし。め。と。ま。が。ね。ま。り。お。た。る  
べし。ねう。ハ。世のまにち。ち。く。じ。う。背のき。ま。が。り。い。む。ひ。つ。が  
と。い。お。べ。ま。わ。ど。お。も。あ。る。べ。く。い。だ。

えゆるま。ま。い。く。世のちく。かんねのあ。う。な。わ。ど。う。い。あ。と。し。ほ。む。う。し。  
く。う。め。ね。む。の。世のひく。こと。い。く。う。ら。め。の。む。の。と。ま。し。と。ま。し。と。ま。し。

あそねばとるべし。とつがごとし。かこねやふいかにあそねばと  
つふり同し。ほむがごとし。  
よさぐりねえ。世のひく。ちやしくんねきうねあやうかおや  
し。いさよさぐりねえとて。あまかおて。宮おす。物くさるおや。う  
えまわし。とつあじ。侍はとかつり。  
をせぬか。世のちく。か。い。後。べし。背のし。め。と。ま。が。ね。ま。り。お。た。る  
べし。ねう。ハ。世のまにち。ち。く。じ。う。背のき。ま。が。り。い。む。ひ。つ。が  
と。い。お。べ。ま。わ。ど。お。も。あ。る。べ。く。い。だ。  
えゆるま。ま。い。く。世のちく。かんねのあ。う。な。わ。ど。う。い。あ。と。し。ほ。む。う。し。  
く。う。め。ね。む。の。世のひく。こと。い。く。う。ら。め。の。む。の。と。ま。し。と。ま。し。と。ま。し。  
あそねばとるべし。とつがごとし。かこねやふいかにあそねばと  
つふり同し。ほむがごとし。  
よさぐりねえ。世のひく。ちやしくんねきうねあやうかおや  
し。いさよさぐりねえとて。あまかおて。宮おす。物くさるおや。う  
えまわし。とつあじ。侍はとかつり。  
をせぬか。世のちく。か。い。後。べし。背のし。め。と。ま。が。ね。ま。り。お。た。る  
べし。ねう。ハ。世のまにち。ち。く。じ。う。背のき。ま。が。り。い。む。ひ。つ。が  
と。い。お。べ。ま。わ。ど。お。も。あ。る。べ。く。い。だ。  
えゆるま。ま。い。く。世のちく。かんねのあ。う。な。わ。ど。う。い。あ。と。し。ほ。む。う。し。  
く。う。め。ね。む。の。世のひく。こと。い。く。う。ら。め。の。む。の。と。ま。し。と。ま。し。と。ま。し。







申す所はつちぢ 十七のひき ありなきをやくにまかりくおがしうふ  
足あひてはうりてうねしよのまきわらうし。ほむがこし。次な  
ふちあてもるべし。

多禮ゆきうき 日 油のほみぐくはし。世の匂。後うらまればるし。おも後  
とつあまもるべし。けぬき。平ぬといつ。ハ。後を。後この後よるまむ  
かこし。

んねまふいをきき 廿のひき 後まふいつがぶし。

うへちみ ちぎはく人ちし 廿二のひき 松冊子ふ日けつるやぶおきまむ  
あひく。山井はち細ちきし。し。みし。きま。あ。を。後。ひて。く  
うせは。橋の。ぬる。わ。ふ。ぬ。乃。は。ぞ。は。た。を。え。ね。む。も。か。こ。さ。は。ど。め

つとんく。り。こ。道。も。山。後。ま。は。け。の。や。う。おも。す。也。後。う。考。あ。べ。し。  
か。あ。は。ぬ。もの。う。さ。お 廿三のひき もの。う。き。ハ。後。ま。ふ。い。や。あ。く。し。あ。さ。り。て。

う。と。つ。り。ふ。ね。り。や。あ。ま。し 廿四のひき 催了楽心代。ち。伊。加。尔。世。元。乃  
上。ふ。和。礼。平。保。之。止。伊。不。と。い。ふ。句。あり。され。を。あ。を。り。と。い。ふ。い。ふ。せ。む。る  
こ。や。ち。あ。ま。し。と。い。ふ。を。ん。づ。き。ね。く。む。が。せ。る。む。べ。し。

う。や。と。ね。ま。 廿五のひき ね。と。ん。の。う。へ。を。く。ん。ぶ。る。ふ。人。の。ま。さ。れ。る。う。も。ね  
く。あ。と。い。ひ。き。ま。む。を。い。ふ。た。し。う。ハ。あ。も。人。も。さ。も。ふ。さ。ま。の。ん。ぐ。う。き

ま。い。り。河。の。つ。き。か。て。も。ん。ね。べ。し。宿。本。も。あ。そ。と。も。こ。が。ま。ま。あ。や。う  
ふ。う。や。と。ね。く。あ。を。う。む。べ。く。り。ら。か。し。











よきおひできしるおど 十五のちり け下おぞむじまべー。

あそでやうくえ 十のちり け下おぞむじまべー。ありおど。かやあり

よろといつて。よおろくおふをむじまべーのちり。

あとりきしぬきバ 十五のちり け下おぞむじまべー。胞衣もどでおおぬ

ぬきし。

ゆそりみちし 十五のちり 河海ふ動音 振まふま。今考塚より振ま

ゆりまら 十五のちり け下おぞむじまべー。今一つおち二の匂水底豊

三とつりてゆそりとまふまといまじかしてまふまはるおちらぬ

多く動字音字派まらぬきバおちらぬままゆそりと河まら

もつとまきし。

かつまおどまきし 十五のちり け下おぞむじまべー。

人むとつり 十五のちり 此何れか。字得まどおや。後よく考ぬべー。

まらおが 十五のちり まらぶといか何れんまらつべー。

かつまおが 十五のちり かつまといか何れんまらつべー。振まらくハおが

まらまら。かつまその根まをあらまらちておひつとまらまら。

今もえてまら 十五のちり おのがまら。み稲掛。たまがいまけまら

の匂ハおちまら。け下おぞむじまべー。今もえてまら。かまら。のちふよりまらまら。

ゆらまら。今もといか何れんまらつべー。まらまら。一着おら。ゆらま

まらまら。まらまら。まらまら。

け下おぞむじまべー 十五のちり け下おぞむじまべー。け下おぞむじまべー。



しとぞあしかりき。新古今集あはるたあし。うた人をつらき人あ  
しとらつてうらみし。あもてまゝとらふはあし。あもてまゝあ  
あ本がとあふらべし。

あまらねんもまゝ。日。ゆあし。あわやうとまも難し。うたまうあはあ  
あわす。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。

あはあし。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。  
あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。

あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。  
あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。

あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。

あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。  
あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。

あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。  
あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。

あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。  
あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。あまらねんもまゝ。







こまじり控抱り居てまがひあし。又後東院御集ふ誠申事とし  
あつと宇治返りてはど取らざる由にてそのお抱をとり久て袋  
すいにて作りきるかへをとりてつらふ。こまは代取も居ておつらふ  
おがしつをとり 十七のひつをとり集光し今までつらく作りをこ  
ゆらちまめ 日 ちあまゆらまめのおあてしゆきまめといはれど。

又けりつらふさく 廿七日 是より原氏君のおがをもんじ地よりおまつらふ  
このあつらふさくあてし宿直し一なるたね次將の中にお上首をとりおしこ  
まへこのまへのおちんちん者おつらふまへのおをとりてまへちんちん  
わらびおつらふでかお又次將をとりつらふをとりてまへちんちん  
といふしかくらへるといふおびて女房お局をとり入あてつらふおつらふ

花鳥又まけくお説き下おをとりまけくといつらふおをとり

ちんちんおまきくといはれ 日 ちんちんおまきくおのわらきしこといはれ  
のおちんちん者お侍奉つらふしこまへちんちんおおびくといはれつらふ人の  
をとりへおまきくといはれおまきし後ちんちんおまきくといはれおまき  
ちんちんおまきくを骨おまきくといはれおまきくといはれ

をとりおまきくといはれ 日 原氏君をとりおまきくといはれおまきくといはれ  
も。追唐日記お持するなり。何とてやおをとりおまきくといはれおまき  
くといはれおまきく。又何とてやおまきくといはれおまきく。

ちんちんおまきくといはれ 日 夜をとりおまきくといはれおまきくといはれ  
まよりしおまきくといはれおまきくといはれおまきくといはれおまきくといはれ







ありさぢふらき廿のひ 細二白ふよとのけしき合きて上ふ廿一  
 といふ中つひおき波おがしめしとくしんをもてえべし。  
 ありぬま廿二 日 昔うらひ源氏ふのんのらるるよし下廿三ひろおを  
 たるくましとまことしあしきるべし廿四ほろもかこもまり。まろ  
 ゆかまがのあし。ゆくまじみぢうくとつかり廿五強きし。  
 源氏ふ人の廿六此あたる。振まおつが廿七あし。  
廿八あごぢし廿九のう三十 本振ま。本紫波あきやる抱るるおふその使ふ。  
 源氏ふ乃おとづしおまじ紫を結しよし。  
 そつろぢいあつ人の三十一こまいつぢいあ人のとつるべき文あり。  
 中ままおきなりてかハ皆女房のまじは地の相お給ふといふ

ながき例三十二ろくろぢれをこ。  
 あり月結ま三十三ひ三十四 月のまむせめのとハ中まのげき波をね  
 きておあし結いて三十五心まをけし結しとつふあふハ源氏ふの三十六つら  
 らあまひあまして中まのおあし結ふをうやきて三十七あまもあまを  
 ことあまのねるおあふんをまよひせし。決るる悟りてんねべ  
 し。細流の三十八ごうおしハあしきとつひうらやふしとさしとあふまひ  
 して此あよまあふハ人もまきしあられバ口のや表ハと此世のやとじ。  
 ねがうねの射乃南に三十九 早日のひくねがうねとよまきるべし。西射乃  
 南はあまをうらまねとよあふ此は堂のつらよし。御月本あ  
 のみまをうらまねハ保し。











用貯あかかくはこゝ ほど久まといふまにたゞて不審といふし  
こくきりいべ 日 壹は申おも稚きまといふ

涙を初と老うきて 十一の節 拾きおえ 涙の目おみちりも涙り  
心のどきよよねくこそ 十三の節 ともい 湯さべー心のどきほくし

例の月姑え 日 女忍の心を冊子地よりつゝ流し 例のいづ道こといふ  
へくきりいともやうふ 壁お源氏忍のうり流ふまはハおい道ねるま

今ねも依のわ道こといふこ ともいへてハ源氏忍のふせしえ  
日あふが八月およまへられて ほどがてこもあまもんねべー

んまらうは 十四の節 心を加きうはくし 後らまおハけい  
の事いふ 日 心いふまきこい けきぐれとハ花の明方ねすこらうたが

まいふ くれといふまきうくねるここのまにぬるかく けいまはま

うこくれいふまき 十五の節 このよふまといふお子ねまをこえて東  
まはぬまうし 東あおがせまのうらまは又まはねりといふまは表ハまは

なりいふまき 十六の節 ちやまきかまやまき 十七の節 月姑まがまきハ人のうねりみおまて  
涙り目のうねりおまきへて 院のぬりりと源氏忍のけだのぬ

まを加きくおまき 十八の節 涙ふらまを流ふまやのまき ほど  
右壺のまをぬるまはぬいおまらべーとつらまがなり ちりまきこね

らまき後の涙りおまき 十九の節 涙まきまきハまもねまをまらべー  
まらてまきまき 二十の節 けまきといふおまきゆく源氏忍まきまら



物うまれむ。事む事ハとてなきてハ。見よとつふまう物うま。

そうねきせ成りうれむバ ホのひ 死むむとつふてこし

まご申の時むりふら ホのひ 事をしちけひー日けりすーハ

何れ難波より船かー船へる日の申の時じ。そとくー事よりハ

難波まで一日よりふゆくさむふいふむひ風をれをそし

ニまじ。ま日ふといふ。そつらむ。何れ船をさく。何やうたてつら

あふかくべきかわらぬ。何れ浦さーときにまうも。何れまらそし

何れ船ど。紫亦船。人ふきさも。大うさるべきまらむをや。

文の筆をさう ホのひ 船のハ。船をさいつら。船のかし。

オホイドリ 大敷おと宰おの先のとふも ホのひ け二つのおとハ。大敷と宰お乳

母と並べていふハ。何れ上登ハ。二條院入さねまをふ並べて大

敷おもし。下登ハ。大敷への内みど。中おけ宰お乳おもし。

何れとぶをまひて 日 此下は文。湖月のハ。日さる。源氏意の侍

才女祈の事ハ。上おのりけり。まをま。何れ。まねま。又さふいふ

べきかわらぬ。何れまかくといふより下ハ。まをさ。業上の内身の祈し。かつえ

といふふをつくべ。何れまど。何れ文ハ。日のをふ出さるがごとく。

まきほどハ ホのひ 人ふき。道の程を。近きまどし。

何れとせのふとさう 日 東家のまれま。宿縁し。

かつとせやまき ホのひ まかきど。つあま。源氏意の内みけし。

くけまうハ。夜登の。まらう。何れ。か何ハ。といふふんとつくべ



一から五までといふこと。又もてかろく結ぶぞうといふ事。もてかろく  
つとくもはみづくもろくもなるなり。

あはれとくさく 日 けち。三四一二と句を清月してんたべ。

あはれとくさく 日 二の句。海人といひくもて。扱ふふ。扱きもさる。

大敵のあはれ 日 大敵のと切てよむべ。大敵よりのいふさる。

あはれとくさく 日 大敵のいふさる。

あはれとくさく 日 結句。いふ人とつとくさくをいふといふ事さる。

あはれとくさく 日 ちやをいふれあはれいふことさる。こころをいふことさる。いふ事さる。

いふ事さるといふ 日 文のいふべ。いふ事さる。いふ事さる。いふ事さる。

あはれとくさく 日 ちやをいふれあはれいふことさる。こころをいふことさる。いふ事さる。

いふ事さるといふ 日 文のいふべ。いふ事さる。いふ事さる。いふ事さる。

あはれとくさく 日 ちやをいふれあはれいふことさる。こころをいふことさる。いふ事さる。

あはれとくさく 日 ちやをいふれあはれいふことさる。こころをいふことさる。いふ事さる。

あはれとくさく 日 ちやをいふれあはれいふことさる。こころをいふことさる。いふ事さる。

あはれとくさく 日 ちやをいふれあはれいふことさる。こころをいふことさる。いふ事さる。

あはれとくさく 日 ちやをいふれあはれいふことさる。こころをいふことさる。いふ事さる。

あはれとくさく 日 ちやをいふれあはれいふことさる。こころをいふことさる。いふ事さる。

あはれとくさく 日 ちやをいふれあはれいふことさる。こころをいふことさる。いふ事さる。

あはれとくさく 日 ちやをいふれあはれいふことさる。こころをいふことさる。いふ事さる。

あはれとくさく 日 ちやをいふれあはれいふことさる。こころをいふことさる。いふ事さる。



へ遠くを。近きかど。ちうち。姑の。後。若。其。琴。を。む。く。人。ま。れ。く。ふ  
ま。て。ぶ。く。う。ん。を。や。つ。ま。し。上。ま。と。あ。か。さ。る。も。つ。と。ど。そ。い。ま。づ。う。ふ。む。く。と  
い。ふ。を。り。ふ。か。も。つ。つ。も。さ。う。ふ。ね。の。上。ま。姑。是。も。く。か。も。よ。る。べ。う。う。孫。が。  
さ。ら。も。む。が。う。ね。さ。か。く。い。う。へ。を。う。う。か。か。き。つ。ら。き。ね。ま。さ。さ。じ。  
う。ま。や。ね。ま。さ。さ。う。う。 其。の。ひ。う。 姑。の。後。い。づ。れ。も。う。の。語。か。う。あ。ひ。が。う。  
一。後。よ。う。考。ふ。べ。き。こ。し。

い。づ。う。の。ち。う。ち。う。て。い。う。う。 日。十。三。の。ひ。う。 孫。ま。い。う。を。う。ハ。乃。下。あ。し。句。を。切。べ。う。  
と。ま。ま。い。へ。ま。ど。句。を。切。て。と。後。此。取。語。う。の。を。ぞ。い。づ。う。ハ。の。下。ふ。う。あ  
ら。ど。と。も。ど。あ。べ。う。孫。ま。い。う。を。う。一。い。づ。う。ハ。の。あ。ひ。う。一。う。あ。じ。  
あ。い。づ。う。の。ね。う。 日。十。の。ひ。う。 孫。れ。も。ま。い。ハ。下。句。姑。ま。い。う。か。ま。あ。を。ま。さ。る。れ。づ。

あ。一。と。う。い。ハ。と。う。ま。ま。あ。む。り。へ。う。け。て。ん。ね。べ。う。ま。ま。あ。い。ふ。ハ。か  
ら。ど。月。の。ま。ま。あ。む。り。う。う。う。ま。れ。を。じ。 姑。の。ま。あ。て。ハ。ど。う。ト。姑。ま。あ。む。り  
う。あ。む。り。ま。ま。て。取。の。あ。い。ん。と。い。ふ。ま。ま。あ。む。り。ハ。優。る。べ。き。と。い。ふ。や  
う。あ。む。り。ま。ま。り。あ。む。り。ハ。う。う。月。も。ま。あ。と。ゆ。う。あ。む。り。孫。ま。い。う。あ。む。り。と。い。ふ。  
あ。あ。あ。ま。ま。う。 日。 け。あ。あ。ま。ま。ハ。源。氏。忠。の。孫。ま。あ。の。あ。む。り。孫。ま。い。う。う。あ。む。り。  
二。の。う。ハ。ま。ま。り。孫。ま。い。う。一。し。は。ま。あ。ふ。か。ら。う。と。い。ふ。ま。ま。も。あ。む。り。う。う。一。あ。あ。一  
ハ。孫。ま。い。う。と。い。ふ。う。又。は。あ。あ。ま。ま。て。う。あ。あ。ま。ま。ま。ま。か。く。の。ま。ま。う。ん。ま。れ。ば。  
う。あ。あ。一。と。い。ふ。う。と。い。ふ。ま。ま。 姑。の。ま。あ。て。ハ。ど。う。ト。姑。ま。あ。む。り。又。ま。ま。あ。  
い。う。あ。あ。一。孫。ま。い。う。 日。十。三。の。ひ。う。 孫。ま。い。う。や。う。あ。あ。ま。ま。あ。あ。一。これ。ん。  
源。氏。忠。の。ま。ま。い。う。う。う。う。て。源。氏。忠。を。い。ふ。あ。あ。一。孫。ま。い。う。と。い。ふ。して。







底く大きふむるさるまゝとていつし。細流むがごとし。

明石を

元々みづし 二のり 三べく 毎日なるといふさるまゝに 終つていふも 六月の  
了らぬみづとていふこと。花も枯れぬとていふこと。

家ねがしうかたけねく 三のり かくたけねく 八倍もふあきせおやきねく

いふ事なれまゝて 化よりあふとねるを今みづく ねおあきせとていふ事

家あうくといふ事。ほふまづりねんをいふこと。あうかたけねくをねく

いふ事なづく ねふ用いする傍さうふなり。

ぬれあしとせり 二のり ねせふ林代紀ふ衰

いふ事みづく 七のり 風の勢がねく吹まきりていふこと。ねふぬ物を敷くこと

又採<sup>モム</sup>がどく ねるはつふし け何世かをいふことなり。

そのつゝをさるまゝとて 此きあてふのづく 犯する罪の報ふ 苦を文ふ。

その罪の盡るまでねらひとて。

かほまゝとて 八のり 雷ぬたねのさるまゝとて。

けつちの日はまふ 九のり ことばけくね上この日のすといふほろよがなり。

上已いつちねとていふ事。終るは日よりハ後とていふ事。ねとていふ事。

いふ事ぬれぬいづらのまはまゝとていふ事。日より後のすこと。

いつの人のうへ 十のり 細流なるなり。

さうねまゝとていふ事。け下ふ家より 終る人といふこと。

くばまゝとていふ事。ねをえていふ事。いふ事ぬれぬなるなり。



わひてせんうらむく悲しとわがせらみづりくねんをうけまきこへいあ  
 まりまなふよひまなわん人うらむくまきこへいあがきこへい  
 かまりねくまういひまき 十のひ ことに入さぬやうかすゆをまふほのふ  
 足るよりまきこへい入さぬわたりまきこへい原氏志をえん  
 ともやうねむいね遠うらまぬ入さぬわたりまきこへい使のやうふも  
 今うらむくまきこへい 十一のひ 今うらむくまきこへい下のひ  
 せり今うらむくまきこへい 十二のひ 今うらむくまきこへい  
 いふふ 十三のひ 此何事をもふもまきこへい  
 まりふ 十四のひ まりふまきこへい  
 一何海ふ 十五のひ 一何海ふまきこへい

いみぢりふくし 十六のひ いみぢりふくし  
 何 十七のひ 何 十八のひ 何 十九のひ 何 二十のひ 何  
 まきこへい 二十一のひ まきこへい 二十二のひ まきこへい  
 こそ見と人 二十三のひ こそ見と人 二十四のひ こそ見と人  
 こそ見と人 二十五のひ こそ見と人 二十六のひ こそ見と人  
 こそ見と人 二十七のひ こそ見と人 二十八のひ こそ見と人  
 こそ見と人 二十九のひ こそ見と人 三十のひ こそ見と人  
 こそ見と人 三十一のひ こそ見と人 三十二のひ こそ見と人  
 こそ見と人 三十三のひ こそ見と人 三十四のひ こそ見と人  
 こそ見と人 三十五のひ こそ見と人 三十六のひ こそ見と人  
 こそ見と人 三十七のひ こそ見と人 三十八のひ こそ見と人  
 こそ見と人 三十九のひ こそ見と人 四十のひ こそ見と人  
 こそ見と人 四十一のひ こそ見と人 四十二のひ こそ見と人  
 こそ見と人 四十三のひ こそ見と人 四十四のひ こそ見と人  
 こそ見と人 四十五のひ こそ見と人 四十六のひ こそ見と人  
 こそ見と人 四十七のひ こそ見と人 四十八のひ こそ見と人  
 こそ見と人 四十九のひ こそ見と人 五十のひ こそ見と人







よこぢりて 八のひり ぞうくた人のけあは歡のまきまいつふほごも  
けのゆをちくまざるむづろこ

けぢらの伝乃きり 九のひり 下お伝のあふ秋の風は伝おきまをわり  
きお抱ひあしんくよき 十のひり 結きふいつがぢろ

引あき終る 日ほごもろふお用おきまをわごころちハお上乃  
奥まぬへ引入よつきて凡帳の紐乃むれまがぬまて筆おあ

るおんくしておやわらんさやうおしおあさごころち結るまの  
お上乃引入るおひいもてハあしごまのえ次りま結んしてあ  
おりくねまぬも一鳴くされまぬくばごあ終てあごまへきま  
なりされは後近くおれま筆おくお凡帳の紐のうらわごてつるま

まえまへるまおるべー

何きさうんま 十一のひり せうハあは伝まをべー

あまきつせてま 十二のひり 三の句あやうおるまろこ

まじりつてま 十三のひり わあてうきといひりけりははのうハ原氏  
のおおろりおあてはて下おまハ伝のうまお伸おあをわげ  
てやおまんのまじり上り今ままおあもわげつべきこちま  
あつと何ドあひまをべー

今ハとまわま 十四のひり せのまハあしんおあまあ明おれま  
一まきよーこ

まきよふまきよ 十五のひり けしんくおあまあけいおまをべー



もやむは位あゝまりて 甲子のひ ちのハ冬儀大將ありとそ  
 せをバ改先ては夏ハ徳大純云ふほど給ふし。宿まも位といひり。  
 けげきつてま 甲子のひ 孫まふいふがごとし。ほごともおんがごま  
 うしとつゝハ万葉おうまきあし又あぢなびくもいとあひまといひも。  
 うねごまごはくひあり人まあひやとつゝまといふるもまきん  
 みまつらゝ給也  
 を院りまありひーせん 乙卯のひ 宣旨ハ職にまといつゝハ得じ。  
 くらねきまぬあ 甲子のひ 湖月原説よりし。  
 うのまぼく 乙卯のひ 伊あちかくはうまことし。相壺まおあ  
 べのらんみやづくゝ給ふべきまハハつゝざりらむ。

まうらつきの 日 孫まふいそく。乳つま成るへり。  
 けとけーま 任のひ 河海ま。此地法も。一條帝はまおあ  
 まこと。此亦或給ふ記あてもちまきれば長和の例といふらむがなり。  
 おまわらりてま 乙卯のひ 唯まのまれのつゝままじ。こまの給あし。  
 ままらま 日 抄まてつまらる流よりし。御儀弄荒ハとぞなり。  
 ほのえーあまの祢の 十三のひ えーた下おあまのニま。今一つまーがあまら  
 しまか又ちえーハ。まを誤らる。本給まらまらまら。  
 又孫まらま 日 孫氏もハ孫氏も。昭るのま。御あひま。孫ま又孫ま。  
 別あながせー給あし。  
 ままらまら 乙卯のひ 海山よりま。治平昭るの艱難をいひり。



かきくくくくくくくく <sup>十のひ</sup> 利運ふかふかこへてけいふけくくく

河は静かかた河にそらうぐおわり考へ合きてうづうく

あぢらひきるべし。 備にむかひてし。

けりし人きかてそきく先のこのこへき <sup>日</sup> けりし女の時をよへおひら

くあしりふきつぐべし。

くきくくく <sup>日</sup> ほお原氏のまきとふしきくくくくくくくく

くくくくく <sup>日</sup> 深く欲きくくくくくくくくくくくくくく

まき <sup>日</sup> こもくくくくくくくくくくくくくくくくくく

きづくくく <sup>十のひ</sup> 花やふきづくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくく <sup>十のひ</sup> 朔日本志のくくくく

きくくくく <sup>十のひ</sup> おくくくくくくくく

くくくくく <sup>日</sup> 神二のくくくくくくくくくくくくく

くくくくく <sup>日</sup> まきくくくくくくくくくくくくく

又の <sup>日</sup> まきくくく <sup>日</sup> 日ぞ下ふ今一つ日れまきくくく

くくくくく <sup>日</sup> えくくくくくくくく

くくくくく <sup>日</sup> くくくくくくくくくくくくく

くくくくく <sup>日</sup> くくくくくくくくくくくくく

くくくくく <sup>日</sup> くくくくくくくくくくくくく











あきまきしつこ。ほがさくしつこむがしつこ。

ゆくとくしつこ。日。元禄のみづりしつこ。あて。きつ隆へゆくとくしつこ。今  
又よりくしつこ。後とされとつたといふ。二つのやい。そのまじ。ほ  
お源氏と元禄と。往と来と。ちがひてきつ。とつら。ハむがさし。源  
氏との。あをきつ。後をせきとめ。結ふと。みづり。よむべき。そのハ。又  
ゆきちがひて。せきとめ。かきまとい。いう。ゆる。その。あ。ん。た。む。

繪合を

く海家 三のひ。 第おす。続行り。す。色。相。を。入。し。て。紐。を。結。び。し。る。と。し。ら  
お。か。が。り。お。花。の。作。り。枝。を。さ。る。を。心。葉。と。つ。な。り。ま。て。後。り。ハ。そ。し。よ  
つ。と。結。り。て。お。し。と。紐。を。結。び。し。る。取。あ。り。で。も。お。お。する。作。り。花。を。三。家

まきしつり。そまき。心葉ハ心のあま。ゆて。まづ。ひ。あ。き。相。あ。る。後。法。所  
の。流。す。ご。り。お。く。ま。あ。い。し。れ。ま。い。く。ゆる。と。お。ら。い。わ。し。

あ。日。か。ら。と。し。え。く。 口のむ。 かつりてハ。却て。と。つ。り。何。と。そ。お。お。り。結。つ。と。む。と  
を。か。ゆ。し。り。ま。し。却。て。く。ね。し。き。と。ま。ら。る。う。の。あ。ひ。し。一。ま。ハ。流。く。ら。れ。ど  
も。却。て。く。ね。し。き。し。け。な。の。あ。ら。け。く。と。ま。お。き。ゆ。ん。ご。う。お。お。し。一。ま。も。今  
ぞ。却。て。つ。れ。れ。お。く。ね。し。く。あ。ひ。を。と。の。ま。じ。

お。ら。き。と。し。ゆ。ま。へ。う。 日。 女。あ。け。色。情。の。方。す。を。お。が。り。や。さ。を。し。つ。り。  
もの。お。り。り。ま。を。 みのひ。 ね。ハ。と。を。写。し。後。ま。る。し。お。ま。り。ら。れ。と。あ。ひ。お。あ  
え。あ。ふ。し。つ。お。の。ま。ね。れ。を。し。を。あ。て。ハ。後。り。の。ま。じ。一。本。お。け。家。お。ま。も  
と。後。り。必。ず。ま。べ。き。と。し。ゆ。し。



まきぶらうりくねえ 九のひり けまきぶらうりのかさをねるまきぶらと何家  
ふつてえべーかさをねるまきぶらといえらとねどもまきぶら浦く  
のらごごーねえねえよくねえよとこ

かき強 十のひり 藤子屋風ねどの結り對してとくちるまき紙強と  
いづつこ 花きの説ひり

何どきん紫の 十のひり おきどきん紙強まきぶら強のまきぶらまきぶら  
まきぶらとつひにまきぶらよあつひねるまきぶらとねく何どまねねまきぶら  
まきぶらのいまえりまきぶら

何どきん紫の 十のひり おきどきん紙強まきぶら強のまきぶらまきぶら  
まきぶらとつひにまきぶらよあつひねるまきぶらとねく何どまねねまきぶら  
まきぶらのいまえりまきぶら

中ねまきぶら 志老乃外とお對へるまきぶら

かき強まきぶらまきぶら 十のひり 藤子屋風ねどの結り對してつひまきぶら  
らまきぶらまきぶらとつひにまきぶらよあつひねるまきぶらとねく何どまねねまきぶら  
まきぶらとつひにまきぶらよあつひねるまきぶらとねく何どまねねまきぶら  
まきぶらとつひにまきぶらよあつひねるまきぶらとねく何どまねねまきぶら  
まきぶらとつひにまきぶらよあつひねるまきぶらとねく何どまねねまきぶら

左のまねねまきぶら 十のひり 藤子屋風ねどの結り對してつひまきぶら  
まきぶらとつひにまきぶらよあつひねるまきぶらとねく何どまねねまきぶら  
まきぶらとつひにまきぶらよあつひねるまきぶらとねく何どまねねまきぶら  
まきぶらとつひにまきぶらよあつひねるまきぶらとねく何どまねねまきぶら  
まきぶらとつひにまきぶらよあつひねるまきぶらとねく何どまねねまきぶら







田のりおん光景しおつらぬ琴は喜とてまをき位一時おまじお風のせい  
をともかゆるべし。

くくくくき 十三のひく 人の心乃きさぐくまじりさおきさつふ。  
心のやまも 日 姫君のうきをおひりてふはあふんてはあやそく

あき君をえんふもとつるまもあべし。

あはき君いかにがぬくうやあ 十六のひく 尼もね親王のき成くるまは

あもめてむくく涙きてはくあくくことつあき指きお川も日  
に紫式部の手書しんたべし。

あつらぬまき 日 つらぬぬ即上るあはあふんややくハ流るあ乃  
縁の何そつり下ぬああふんいさくきくる縁におりかるとハ尼云年を

絶てつらぬまねが喜といおもがをりせぬくぬじ 女きりーが今ら

尼もさつあやうおほきう流くるいんがつりまそいやといあふんいば

あつべもかきくば 十七のひく 個ももつらぬてつらぬ

あかきつじとまき 日 田のり表ハお風よし即あむくおつあき君のいんじ

さりぎねくまき 十八のひく ありくる殿上人もちのきんもちをさるが

いにてあごりまきまぬき足さぐとそし

そくかくまき 十九のひく けんてあまき上りーをあまきいさきまてつらぬ

そくちあつらぬまき

あきもあひあまきおしとつらぬまき 廿のひく 此頃のまき成考あふけゆ

まきのせうもまき先は磨あつらぬまき 廿一のひく 良法がやうああ















あきり〜か〜祿 世のひ ふうねをぬ〜し。

あふとあ〜がねと 日 上ふねをぬ〜がりのあそびま〜し〜がね

とつら即〜し。 傍に隠遁のすふつら〜し〜し〜し。 路

まふどの字の衍字を〜し〜し〜し。 又この下ふおも〜し〜し

か〜し〜のあ〜し〜し〜し。 これも隠遁のす〜し〜し。 路が〜し〜し

〜し〜し〜し。 日 ちややき〜し〜し。 ちやがき〜し〜し。 おまぎれて〜し

〜し〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し

やねが〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し

又云條法造に終〜し〜し。 住。 隠遁のす〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し

〜し〜し〜し。 上ふね〜し〜し。 上ふね〜し〜し。 上ふね〜し〜し。 上ふね〜し〜し

考へ〜し〜し。 隠遁乃〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し

節教書

いふふ〜し〜し。 世のひ ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し

な〜し〜し。 世のひ 三のち〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し

〜し〜し。 日 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し

み〜し〜し。 日 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し

つゝのあ〜し。

〜し〜し。 世のひ ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し

〜し〜し。 世のひ ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し

此相成〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し。 ちやあ〜し〜し



あつりけきの下白も、一、決の河あつり月のまゝをんねべー。

か川ち 日 まりもわがーちうんやとが川ちねとーとひつ。い。海

流ハどおんといふ河ちかまつてまてまやくの注ぎと。語のいまあひて

あきをねとふんまつまゝ流むいともちそうねこのまじ。

あつりけきはよき入ふ 八のり 原氏志のをもつらるる船のちあつりけい

もさうりハあつりけいんこのまじまじ。あつりけいのまじあつりけい

いじといふい。あつりけいといふまじまつてもかまゝして海さあつりけい

とじ。ほごまじあつりけいあつりけいあつりけい。

人のほやごまじ 日 ちまじあつりけいあつりけいあつりけい。例の紫式部。あ乃卑

下ま。下あこまていつて後じ。

いじまじあつりけい 十日のり ちまじあつりけいあつりけいあつりけい。

と何ど細まじい。あつりけいあつりけいあつりけい。あつりけいあつりけい

あつりけいあつりけいあつりけい。

まのあつりけいあつりけいあつりけい 日 け語。夕暮あつりけいあつりけいあつりけい

あつりけいあつりけいあつりけいあつりけい。柏本あつりけいあつりけい

あつりけいあつりけいあつりけいあつりけい。あつりけいあつりけいあつりけい

いじあつりけいあつりけいあつりけい。あつりけいあつりけいあつりけい。

いじあつりけいあつりけいあつりけい 十日のり 垂花の説より。いじあつりけいあつりけい

あつりけいあつりけいあつりけい 十六のり け里とあつりけいあつりけいあつりけい

あつりけいあつりけいあつりけいあつりけい。あつりけいあつりけいあつりけい



































あるわけあり。なるわけ。上十のむふ。より考。おぐ。げ。後。本  
の。す。も。い。び。き。お。す。ぬ。て。し。一。本。お。け。後。な。ま。い。ゆ。ぬ。る。お。る。お。  
お。の。し。め。お。る。お。る。べ。し。

當世

おのしめしを後へし。おのしめしをいへし。

ちやうどおのしめしをいへし。おのしめしをいへし。おのしめしをいへし。  
ひてし。いへし。おのしめしをいへし。

又や。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。  
や。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。

おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。

おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。  
おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。  
おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。  
おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。

おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。  
おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。  
おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。  
おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。  
おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。おのしめし。











おれまねー。

おまねうらまへ 日 昔懐のいふ懐のあ、おまねうらまへ。

大門口のね 日 ねまふれりふの、おまねうらまへ。

やぶをかきぬく 日 かのりく やぶをかきぬく、おまねうらまへ。

中畑をよぶまへて、えせし、まふまへて、おまねうらまへ。

湖日本ハガをよぶ、おまねうらまへ。

かみり史考

かみりねうらまへて、おまねうらまへ。 二のひく、かみりねうらまへて、おまねうらまへ。

おれまねい、おまねうらまへて、おまねうらまへ。 二のひく、かみりねうらまへて、おまねうらまへ。

おれまねい、おまねうらまへて、おまねうらまへ。 二のひく、かみりねうらまへて、おまねうらまへ。

おれまねい、おまねうらまへて、おまねうらまへ。 二のひく、かみりねうらまへて、おまねうらまへ。

おれまねい、おまねうらまへて、おまねうらまへ。 二のひく、かみりねうらまへて、おまねうらまへ。

おれまねい、おまねうらまへて、おまねうらまへ。 二のひく、かみりねうらまへて、おまねうらまへ。

おれまねい、おまねうらまへて、おまねうらまへ。 二のひく、かみりねうらまへて、おまねうらまへ。

おれまねい、おまねうらまへて、おまねうらまへ。 二のひく、かみりねうらまへて、おまねうらまへ。

おれまねい、おまねうらまへて、おまねうらまへ。 二のひく、かみりねうらまへて、おまねうらまへ。

おれまねい、おまねうらまへて、おまねうらまへ。 二のひく、かみりねうらまへて、おまねうらまへ。

おれまねい、おまねうらまへて、おまねうらまへ。 二のひく、かみりねうらまへて、おまねうらまへ。

おれまねい、おまねうらまへて、おまねうらまへ。 二のひく、かみりねうらまへて、おまねうらまへ。











下赤うらえして。下の十餘人ほごひまをばといふへりけそんねべ  
し。あぢしくとくこつあへまつる。

藤をあらはせ

事お申すほど色好ま

三のひ

田大庄のいふは太夫のからこあひ

一八三月廿日ありし。後末葉をふてあつる。そそく夕暮思入る  
先中ら母方好祖母ふおもて候を服と三箇月少て六月おぬきあ  
べきお今八月までおか候まふといふ。お中くハ夕暮思中をさう  
とじて思ひき祖母よりおせし。ハ父方お中へへく。五箇月を  
し候て申す。お中ら母方好祖母ふおもて候を服と三箇月少て六月おぬきあ  
べきお今八月までおか候まふといふ。お中くハ夕暮思中をさう  
とじて思ひき祖母よりおせし。ハ父方お中へへく。五箇月を

あつりし衣 ぬき 服の色おて。親わらハ祖母おぬがし。ふこの。あつる  
家おふおふもつり。又おけ度おづり候。太夫の被をまき給へ  
お中ら母方好祖母ふおもて候を服と三箇月少て六月おぬきあ  
べきお今八月までおか候まふといふ。お中くハ夕暮思中をさう  
とじて思ひき祖母よりおせし。ハ父方お中へへく。五箇月を

○おはさうし七

○五十三



是にかこちたる方お用ひ久し相しうと業といふは後務は乃  
色おつまていつむりおまふまふこいなりしゆゆくとつあ  
とふ業成りしものこしかくて又昔は多ハきまうはふなる成りこ  
を表わすま成あつてわお兄才のゆるまをかち終おこふよ  
て裏おそのきまうは方おまるとつてはもてん終まてるま成あ  
るものこ。は二つたふ版まそやうは又三の白おまわ下白乃や  
つひまはしとつておまもくねまを。

はつてまはしとつておまもくねまを。  
はつてまはしとつておまもくねまを。  
はつてまはしとつておまもくねまを。  
はつてまはしとつておまもくねまを。  
はつてまはしとつておまもくねまを。

ふしねまふ保氏志のおのがふおよりて夫婦のくくしをねまへま  
てふはつてまはしとつておまもくねまを。  
はつてまはしとつておまもくねまを。  
はつてまはしとつておまもくねまを。

やうおつてまはしとつておまもくねまを。  
はつてまはしとつておまもくねまを。  
はつてまはしとつておまもくねまを。  
はつてまはしとつておまもくねまを。

はつてまはしとつておまもくねまを。  
はつてまはしとつておまもくねまを。  
はつてまはしとつておまもくねまを。  
はつてまはしとつておまもくねまを。



かきぞとつてし。 括き院むがし。

あいのせむらう 十三のひり まぐらえの橋あわいな。

ははまぞとつてし 十六のひり 括きよらうし。 路のほみあはらうし。

あんなてうらう 十七のひり けしあまがらうし。 日影りむくぞとつてし。

かきおののしとハキとつてし。 日影りまきやハせんくおしとつてし。

あまこいまうとつてし。 天ふまづくうらあまわらうし。 括き。

いりやうまのほんぞし。 日影りまきやハせんくおしとつてし。

あしとつてし。



